

## キャスターという仕事（続続）

まだまだ紹介したいことがある。最終回あたりまで付せんをつけていた。こうして書き写していても、なんだか「ゾクゾク」してくる。

ジャーナリズムの機能は第一義的には権力の監視機能だろうが、社会的弱者に対する感受性、想像力を発揮して、社会全体がその痛みを共有するよう、弱い立場に置かれた人々が抱える問題を広く伝えることもジャーナリズムが果たさなければならない重要な役割だ。地域の痛みの見える化で社会全体に情報を公平に伝え、その痛みの解決のため何を優先するのか、どんな知恵が必要かを考える場を提供することがジャーナリズムのとても大事な機能だと、23年間の経験から思う。

そして経済格差が拡大するなかで広がるシングルマザーたちの急速な貧困化や、子どもたちの貧困化など、日本社会全体に広がる「暗いつぶやき」を、どこまでも拾い上げていくことも報道番組の役割なのだ。

ここ2、3年、自分が理解していたニュースや報道番組での公平公正のあり方に対して今までとは異なる風が吹いてきていることを感じた。その風を受けてNHK内の空気にも変化が起きてきたように思う。例えば社会的にも大きな議論を呼んだ特定秘密保護法案については番組で取り上げることが出来なかった。また、戦後の安全保障政策の大転換と言われ、2015年の国会で最大の争点となり、国民の間でも大きな論議を呼んだ安全保障関連法案については、参議院を通過した後にはわずかに一度取り上げるにとどまった。最終回の放送が終わった後、メディアの取材要請に答える形でこうコメントした。

23年前に〈クローズアップ現代〉という番組に出会って以来、見えないゴールに向かって走り続けてきたように思えます。時代が大きく変化しつづけるなかで、物事を伝えることが次第に難しくなってきましたが、……

経済格差などで社会が分断され、加えて財政難と低成長にも直面するなか、一つの問題の解決がまた別の問題を生み出すなど、課題が互いに絡み合い、課題解決に向けた合意形成はますます難しくなっている。そういう状況だからこそ、考える材料や議論を促す、いわば「情報のプラットホーム」を提供する報道番組はより一層必要だと思う。閉塞感があふれる社会のなかで合意形成を促し、議論の場を提供してきたことに〈クローズアップ現代〉の存在意義もあった。



(2017年2月20日)